

RPPC メールマガジン 第 760 号

リサイクルポート推進協議会（平成 30 年 1 月 30 日発行）

■先週・今週の報道発表

先週・今週の報道発表は特にありません。

■RPPC 事務局からのお知らせ

事務局からのお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾局、重要港湾等主幹課長会議開催
2. 主幹会議で「PORT2030」を港湾政策に活かす取組等
3. 2018 年のクルーズ実績、速報値公表

=====

◆リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾局、重要港湾等主幹課長会議開催

国土交通省港湾局は 1 月 22 日、平成 30 年度第 1 回「重要港湾管理者等主幹課長会議」を開催した。

31 年度港湾予算・新規施策、30 年度第 2 次補正予算、また港湾の中長期政策に対応した港湾計画の方向など、港湾の主要施策の動向について港湾局各課の担当者が説明し、港湾行政の連携推進に向け国と港湾管理者との情報共有を図った。

会議冒頭、海谷大臣官房審議官は、「港湾は現場あつての行政であり、港湾を管理している皆様のご協力が不可欠。現場に携わっている皆さんと国とが一堂に会して意見を交換するこうした機会は非常に大切。31 年度港湾予算は前年度比 1・19 倍を確保することが出来た。こうした予算を通じて港湾施策を一步一步前に進めていくが、そのためにも港湾管理者の皆様の一層のご協力をお願いしたい」と挨拶した。

.....

2. 主幹会議で「PORT2030」を港湾政策に活かす取組等

22日に開かれた「重要港湾管理者等主幹課長会議」では港湾局から、国際コンテナ戦略港湾政策、港湾の中長期政策「PORT2030」の実現に向けた取組み等について説明があった。

この中で国際コンテナ戦略港湾政策では、過去5年間の取組により国内港とのフィーダー網は成果が出て来たが、31年度以降の集貨強化対策として、国内は勿論、東南アジア等国内外とのフィーダー航路を充実させ、北米・欧州をはじめ中南米・アフリカ等多方面・多頻度の直航サービスの充実を目指して取り組む、との方向を示した。

また、港湾の中長期政策「PORT2030」の実現に向けた取組みとしては、今後の港湾長期構想づくりについてPORT2030の趣旨を活かした取組みを要望。

併せて、「PORT2030」を踏まえ、「港湾の開発、利用及び保全等に関する基本方針」を20年ぶりに抜本的に見直す作業に入っていることを報告。

そして港湾の電子化や情報化、アジアの急激な経済成長などの社会環境を港湾の基本方針にどう活かして方向づけるのかが課題とし、こうした動きをしっかりと受け止め、産業や暮らしのためにしっかり対応していきたい、との考えを示した。

.....

3. 2018年のクルーズ実績、速報値公表

国土交通省港湾局は1月18日、2018年の訪日クルーズ旅客数並びに寄港回数の速報値を発表した。

旅客数は前年比3.3%減の244.6万人、クルーズ船の寄港回数は前年比5.9%増の2928回となり、クルーズ船の寄港回数は過去最高を記録した。

クルーズ船寄港のうち外国船社は1913回、日本船社は1015回。港別では1位が博多港（279回）、那覇港（243回）、長崎港（220回）の順となっている。

【港湾空港タイムス1月28日号から編集】

////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：青木 信裕 新日鐵住金（株）

山崎 和宣 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、安田

URL : www.rppc.jp E-mail : rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

- 会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。
開催案内等の情報をメルマガで配信致します。
- メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。
- メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。